

# Schwartz の「価値観モデル」の実証的な検討

——国際比較の視座からのデータ分析——

青山学院大学 真鍋一史

## 1 目的

本報告は、「世界価値観調査 (World Values Survey: WVS)」の「第 6 回調査(2010–2014)」のデータ分析をとおして、Shalom Schwartz の「価値観モデル」を、国際比較の視座から、実証的に検討する試みである。Schwartz は人びとの価値観を「環状連続体 (a circular continuum)」という形状モデル (configuration model) で描き出した。そのような「環状連続体」にあつて、それぞれ隣接している領域 (扇形あるいはくさび形) に位置する価値観は、相互交換的な関係にあり、両者は類似の意味を持っている。そして、その「環状連続体」における反対側の領域に位置する価値観は、それとは対立する意味を持っている。これが Schwartz の価値観の基本的な「構造モデル」である (Schwartz, 1992)。

## 2 方法

(1) データ分析に取りあげる質問項目は、「第 6 回日本調査票」の問 23 の A~L から E と L を除く 10 項目である。

(2) データ分析に取りあげる調査対象国は、欧米諸国：ドイツ、アメリカ合衆国、旧共産諸国：ロシア、イスラム諸国：トルコ、アフリカ諸国：南アフリカ、アジア諸国：日本、韓国、中国、タイ、マレーシアの 10 か国である。

(3) データ分析では、① Schwartz の 10 の質問項目に対する回答結果の度数分布の検討、② 上記の 10 の質問項目に対する回答の相互間の関係を示す「相関マトリックス」の検討、③ 「相関マトリックス」にもとづく「最小空間分析 (Smallest Space Analysis : SSA)」の結果、つまり、「SSA マップ」の検討を行なう。

## 3 結果——「SSA マップ」の国際比較——

10 か国の「SSA マップ」は、その幾何学的な形状という側面においては「共通点」が見られるものの、その価値観の諸項目の「空間布置」における circular order という側面においては「相違点」が見られる。しかし、価値観諸項目が、縦の線あるいは斜めの線によって、質問項目の記号でいえば「J、F、K、I、C のグループ」と「A、H、D、G、B のグループ」に 2 分されるという点では、10 か国は共通している。

## 4 結論

以上から、Schwartz の「価値観の環状連続体モデル」は、10 か国における価値観諸項目の相互間の関係の構造の比較分析という課題においては、少なくともその基本的な枠組みを提供するものであることが確認できたのである。

## 文献

Manabe, Kazufumi (2001). *Facet Theory and Studies of Japanese Society: From a Comparative Perspective*, Bier'sche Verlangsanstalt, Bonn, Germany.

Schwartz, Shalom H. (1992). Universal in the Content and Structure of Values: Theory and Empirical Tests in 20 Countries, in M. Zanna ed., *Advance in Experimental Social Psychology*, 25, Academic Press.